慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	矢内原勝教授著作目録
Sub Title	Bibliography of the works by Prof. Katsu Yanaihara
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1991
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.83, No.特別号-II (1991. 3) ,p.264- 276
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	矢内原勝教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19910301-0264

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

矢内原 勝 教授著作目録

著　　書

『低開発国の輸出と経済開発』　東洋経済新報社　1965年
『金融的従属と輸出経済―ガーナ経済研究―』　日本評論社　1965年
The Economic Development of Japan for 100 Years, Ministry of Foreign Affairs, Japan　1967年
『国際貿易論』　慶應通信　1968年
『ココア経済・輸出経済国の経済発展―ガーナを例として―』（国際問題新書　22）日本国際問題研究所（細見眞也と共著，はしがき，第5章　ココア輸出とガーナ経済）　1969年
『アフリカナイゼーションの政治・軍事および経済的側面』（小田英郎と共同執筆，　第2部　アフリカナイゼーションと日本進出企業）　外務省中近東アフリカ局アフリカ課　1974年
『アフリカの経済とその発展―農村・労働移動・都市―』　文眞堂　1980年(初版)，1986年(改訂再版)
『発展途上国の経済発展と労働移動』　慶應義塾大学（福澤記念選書　29）1981年
(新)『国際貿易論』　慶應通信　1982年(初版)，1986年(改訂再版)

編　　著

『近代化の条件―日本の立場・低開発国の立場―』（序文，第Ⅰ部Ⅱ　近代化と国民の行動）ダイヤモンド社　1970年
『現代の世界7　アフリカ』（小堀巌・富川盛道・浦野起央と共著，序　アフリカを知るために，Ⅴ―2　アフリカ経済の特質）　ダイヤモンド社　1971年
『「アフリカナイゼーション」の意味と現実』（はしがき，第1章　アフリカナイゼーションと近代化・経済発展）アジア経済研究所　1973年
『アフリカ・ラテンアメリカ関係の史的展開』（小田英郎と共編著，まえがき　第二章大西洋奴隷貿易のアフリカへの影響）　平凡社　1889年
『世界経済のニュー・フロンティア』（深海博明・大山道広と共編著，第13章　土地余剰輸出経済国の経済発展）　文眞堂　1988年
『経済協力計画策定のための基礎調査―国別経済協力計画―(アフリカ)』（プロジェクト・マネジャー　第3章　構造調整政策の実施状況と効果，第4章　アフリカの構造調整の実績と展望）　国際開発センター　1990年3月

編集・校訂

矢内原忠雄『内村鑑三とともに』　東大出版会（「あとがき」）　1962年
矢内原忠雄『信仰と学問―未発表講演集―』　新地書房（校訂・編集「編集後記」）　1982年
『矢内原忠雄未発表聖書講義・イザヤ書・ミカ書』新地書房（校訂（中村勝己），「序」），　1984年
『矢内原忠雄未発表聖書講義・エゼキエル書』　新地書房（編集・校訂，「あとがき」）　1984年
『矢内原忠雄未発表聖書講義・ヨブ記・詩篇』　新地書房（校訂（川西進），「序」）　1986年
『矢内原忠雄未発表聖書講義・伝道之書・雅歌』　新地書房（校訂（川西進），「序」）　1986年

学術論文

「日本の人口問題とその解決策」　毎日新聞社人口問題調査会　入選論文　未刊　1950年3月11日
「千年至福説と共産主義思想」『橄欖』7号　1950年12月
「黙示録と共産主義思想」『橄欖』8号　1951年6月
「インターナショナリズムとソ連邦の民族政策」『三田学会雑誌』44巻7号　1951年7月
「ナショナリズムとインターナショナリズム」『国際経済』3号　1952年5月
「リンガジャティ協定について」(資料) (1)(2)(3)『三田学会雑誌』46巻4号，5号，6号　1953年4月，5月，6月
「国際関係下のインドネシア」『世界経済』8巻6号　1953年6月
「英連邦の統一についての覚え書」(資料) 上・下『三田学会雑誌』47巻7号，8号　1954年7月，8月
「スターリング地域は崩壊するか——結合力を弱めた構造的要因」『エコノミスト』　1956年7月28日号
「スターリング地域の植民地通貨制度」『三田学会雑誌』49巻11号　1956年11月
「英仏の権益とスエズ問題」『アジア問題』6巻2号　1957年2月
「アフリカの経済開発問題」『外交季刊』2巻2号　1957年4月
「英領植民地の銀行問題」『バンキング』112　1957年7月
「スターリング地域の内核—植民地保有ポンド残高について—」『日本の経済と貿易』(『国際経済』9号)　1957年
「西アフリカ・マーケッティング・ボード下のココア買付機構の研究」『慶応義塾経済学会年報』1　1958年
「西アフリカ・マーケッティング・ボードの安定政策と基金」『三田学会雑誌』51巻4号　1958年4月
「「軟貨圏貿易論」の背景」『エコノミスト』　1958年6月28日号
「新独立国ガーナの経済問題」『外交季刊』3巻3号　1958年7月
「インドの小工業と技術協力」『アジア研究』5巻2号　1958年10月
「インド小工業政策の理論的基盤—低開発国の産出量と雇用問題—」『三田学会雑誌』52巻3号　1959年3月
「経済開発と経済協力」『世界経済』復刊第41号　1960年1月
「インドの国際収支の型の変化について」『三田学会雑誌』53巻1号　1960年1月
「労働事情の特質と問題点」『インドの労働事情』(調査研究報告双書　第1集) アジア経済研究所，第1部第2章　1960年
「後進国開発論」『世界経済評論』　4巻5号　1960年5月
「ナショナリズムと低開発国」『思想』1960年12月号
「ビルマの貿易構造の特質と変化」『ビルマの経済開発』(調査研究報告双書　第14集) アジア経済研究所，第1部第6章　1961年
「輸出経済の形成—ビルマの米輸出貿易—」『三田学会雑誌』54巻4号　1961年4月
「政治的独立の経済的意味」『コリア評論』40巻5号　1961年6月
「輸出による強制貯蓄—ガーナのココア輸出の例—」『三田学会雑誌』55巻1号　1962年1月
「アフリカの経済開発—ガーナ・ヴォルタ河計画—」日本国際政治学会編『アフリカの研究』　1962年
「国際収支構造の変化」『インドの経済開発と国際収支』(調査研究報告双書　第45集)　アジア経済研究所，第2篇第1章　1963年
「アフリカ経済と経済統合の問題点」『世界経済評論』7巻4号　1963年4月
「東南アジア地域の資本形成における輸出の役割」『アジア諸国経済開発の比較研究』(研究参考資料　第61集) アジア経済研究所，第3章　1964年
「低開発諸国における二重経済構造の成立過程」『産業研究』　No. 2 (通巻3号)　1964年度
「アフリカの経済構造」『国際問題』54号　1964年9月

"Problems of the Rice Trade between Burma and Japan—A Case Study on Exports of Primary Products in Underdeveloped Countries—," *The Developing Economies*, Vol. II, No. 1. (March 1964)

「日本における現代インド経済の研究」『アジア研究』11巻1号　1964年4月

『北アフリカ諸国の調査レポート』外務省経済局中近東課　圣近　資料13号,　1964年6月

「北アフリカ経済の問題点」『北アフリカ経済使節団報告書』外務省経済局，第2部3 ii　1964年6月

「低開発国の工業化と国際収支」『低開発国経済と日本—インドを中心として—』日本経済調査協議会，V章　1965年

「ガーナの開発計画—インドとの比較—」『機械工業・海外情報』76号　1965年9月

「低開発国の現状と問題点—(1)経済開発」山本登編著『現代世界経済—その理論と実態—』　世界書院，第5章　1965年　1972年増補改訂版

「低開発国の開発計画と社会主義」『世界経済評論』9巻10号　1965年10月

「経済開発と二重経済」（研究ノート）『三田学会雑誌』59巻4号　1966年4月

「低開発諸国の二重経済構造の成立」山本登編『東南アジア開発と二重構造』　至誠堂　第2章　1966年

「アフリカ諸国の機械輸入と経済開発」アフリカ小委員会報告書『アフリカ諸国の経済開発と機械輸入需要の分析』機械振興協会経済研究所　第1部第1章　1966年

「アフリカ経済の輸出部門の発展」『アジア経済』8巻2号　1967年2月

"Some Historical Observations on the Development of Japan," *Economic Bulletin of Ghana*, Vol. XI, No. 3, 1967

「低開発国住民の経済的行動」『三田学会雑誌』60巻8号　1967年8月

「後進国経済発展の理論と現実」『国際経済学の根本問題』(『国際経済』18号)　1967年

「国際化と国際分業」『経済セミナー』経済白書特集号　7月号臨時増刊　1968年

「低開発国の型ないし分類」（研究ノート）『三田学会雑誌』62巻3号　1969年3月

「アフリカ諸国の輸出経済・二重経済構造形成と経済開発—旧イギリス領を中心として—」星昭編『アフリカ諸国における経済自立』（アジア経済調査研究双書 173）アジア経済研究所，第2章　1969年

「後進国の経済発展と貿易」『経済評論』　1970年10月号

「アフリカの経済発展と労働移動—労働移動モデルのアフリカへの適応性」『アジア経済』12巻3号　1971年3月

「英語圏アフリカの貨幣と銀行」アフリカ研究会編『アフリカ諸国における経済自立(続)』アジア経済研究所研究参考資料10，第1章　1971年

「発展途上国の経済発展」『発展途上国の未来像と南北問題の展望—とくに日本を中心において—』外務省経済局，第5章　1971年

「発展途上国のこれからのすがたと南北貿易の見通し」（田中拓男と共同執筆）『経済と外交』592号　1971年9月

「経済援助の意義」『経済協力推進の方途』日本経済調査協議会，第1章　1971年

「発展途上国に対する援助と外国資本」『研究月報』日本経済研究協会　No. 70　1971年10月

「先進国は発展途上国にどこまで干渉すべきか」『経済論壇』18巻7号・改造60号　1972年7月

「近代化と外国資本—アジア・アフリカの場合—」川野重任編『アジアの近代化』東京大学出版会　1972年

「発展途上国経済発展の二部門モデル」『三田学会雑誌』65巻12号　1972年12月

「西アフリカのアフリカ人商人と市場」上・下『三田学会雑誌』66巻6号，7号　1973年6月，7月

「近代化で自立は可能か」『世界政経』2巻10号　1973年10月

「日本の発展途上国に対する直接投資企業と国民化政策—アフリカの事例—」『三田学会雑誌』67巻8号　1974年8月

「アフリカ経済の現段階」『流動』7巻3号　1976年3月

「資源貿易と経済開発・アフリカ経済の特徴と発展＜その1＞一般」『地域開発ニュース』92号　1975年4月

1日
「資源貿易と経済開発，アフリカ経済<その2>ナイジェリア」『地域開発ニュース』93号　1975年7月1日
「発展途上国への技術移転」上・下『三田学会雑誌』68巻7号，8号　1975年　7月，8月
"Japanese Overseas Enterprises in Developing Countries under Indigenization Policy——the African Case," *Japanese Economic Studies,* Vol. IV, No. 1 (Fall 1975)
海外経済リポート「黒アフリカ三国における日本進出企業の現況—日本進出企業の経済的環境を考える—」『世界経済評論』19巻12号　1975年12月
「第4世界としてのブラック・アフリカ」『アジア』11巻2号　1976年2月
「セネガルの落花生生産・輸出の成長要因」『三田学会雑誌』71巻2号　1978年4月
「発展途上国の労働移動問題—アフリカの農村から都市への移動を中心として」『世界経済評論』22巻9号　1978年9月
「フランスにとってのアフリカ—その過去と現在—」『共産主義と国際政治』3巻4号　1979年1～3月
「人口希薄国の労働余剰—黒アフリカの事例」『三田学会雑誌』72巻3号　1979年6月
「80年代における LLDC 諸国の経済・社会的ニーズを探る」『国際協力』2693号　1980年1月
『経済協力評価調査報告書ケニア・ナイジェリア・タンザニア・ザンビア』世界経営協議会（タンザニア3と4，ザンビア3と4）　1980年3月
「西アフリカの労働移動—土地余剰下の輸出経済形成—」『アジア経済』23巻1号　1982年1月
「経済発展についての農業の役割—熱帯アフリカの事例—」(1), (2)『三田学会雑誌』75巻3号，4号　1982年7月，10月
「西アフリカ諸国都市内フォーマル・セクターとインフォーマル・セクター—農村より都市への労働移動—」『アジア経済』23巻10号　1982年10月
「輸出用1次産品の小規模対大規模生産—小農対プランテーション—」『三田学会雑誌』77巻6号　1985年2月
「ロメ協定・輸出稼得安定化制度とその評価」『アジア経済』26巻2号　1985年2月
「アフリカの飢饉とその発生要因」『世界経済評論』29巻9号　1985年9月
"Japan's Economic Cooperation and Industrial Transformation in Asian Developing Countries: The Case of the Asahan Project in Indonesia," *Mondes en Développement,* No. 53, Tome 14 Année 1986
「アフリカ経済の現状と展望」『世界経済評論』30巻2号　1986年2月
「西アフリカの農業」『アフリカ農業研究資料，昭和61年度アフリカ農業研究会講演記録』農業総合研究所　1987年3月
「経済発展に果たす無制限の要素供給の役割」『三田商学研究』30巻1号　1987年4月
「矢内原忠雄の植民政策の理論と実証」『三田学会雑誌』80巻4号　1987年10月
「南ア貿易に群がる日本企業リスト」『現代』22巻5号　1988年5月
「アフリカ経済・不振より脱出の可能性」『世界経済評論』34巻3号　1990年3月
「アフリカ経済の現状—貧困・累積債務・構造調整—」『世界経済評論』36巻3号　1991年3月
「ナイジェリアとザンビアの農業および都市・建設現場間の労働移動」『三田学会雑誌』84巻特別号—II　1991年3月

時論・解説

「英領西アフリカをみる」(上)(中)(下)『朝日新聞』1956年4月3日，4日，5日朝刊
「国際関係論について」『SPUR』5号　1959年
「経済発展の径路」『三色旗』159号　1961年6月
「国際連合の政治機関」『東京独立新聞』14号　1961年6月15日

国際収支講座1～4『国際問題』 20号，21号，22号，23号　1961年11月，12月，1962年1月，2月
「ヨーロッパ経済共同体のすべて」『東京独立新聞』24号　1962年4月15日
「後進国開発の諸学説：a近代経済学派」講座国際経済　第5巻『帝国主義と後進国開発』　II－4　有斐閣　1962年
「世界経済の発展と地域的経済統合―西欧統合の背景」『時事教養』276号　1962年10月
「東南アジア諸国における輸出と資本形成」『A・A地域総合研究連絡季報』7　1963年10月30日
「自由・自由貿易・貿易の自由化」『三田評論』621号　1963年12月
『国際問題』すいせんのことば「複雑な今日の国際問題を解く鍵」　1964年5月
「見てきたアルジェリア―平和になったが悩みは多い」『朝日新聞』　1964年5月8日朝刊
もっと知ってよい国―14「アルジェリア―フランスとアラブの間」『朝日ジャーナル』6巻24号　1964年6月14日号
「国際親善と国家意識」『三色旗』203号　1965年2月
「慶応学生ストの実態と問題点」『東京独立新聞』59号　1965年3月15日
随筆特集　新しい時代・新しい学問「低開発国援助」『三田評論』645号　1966年1月
「低開発国の経済発展を阻害しているもの」『時事教養』365号　1966年3月1日
「大学の水準」『慶應義塾大学報』1巻4号　1967年2月20日
「アフリカを旅して」『世界経済ダイヤル・レポート』No. 74（日本短波）　1967年6月
「アフリカ諸国民の質―アフリカ英語圏11カ国を回わって―」『東京独立新聞』87号　1967年7月15日
「鶏卵ととうもろこし」『SPUR』　1967年
「アフリカ英語圏の経済問題」『経済と外交』511号　1967年6月15日号
「アフリカ英語圏の経済開発」『アジア経済』9巻1号　1968年1月
「アフリカの近代化」『大学キリスト者』4巻34号　1968年8月
「東南アジア経済を論じる前に」『SPUR』　1968年
「日本近代化論の系譜」『エグゼクティブ』No. 53　6巻2号　1969年2月
「ナイジェリア内戦に思う」『三色旗』252号　1969年3月
「日本の同質性と外国の異質性」『SPUR』　定期号　1969年
「経済発展の道」（巻頭言）『SPUR』　1969年
「ナイジェリア内戦の背景」上・下『東京新聞』ほか2社（3社連合）　1970年1月29日，30日夕刊
「ナイジェリアの人々―ハウサ族とイボ族―」『三色旗』265号　1970年4月
「進展せぬ『南北問題』」有沢広巳・中山伊知郎監修『現代をみる眼―考える手がかり―第1弾』　自由書房　1970年
「ヨルダン内戦の背景」『東京独立新聞』127号　1970年11月15日
「援助の目的と手段」『SPUR』1970年
「理論とドラマの間『塾』46号　1971年4月1日
「援助の名目と実質」『SPUR』1971年
「世界のなかの日本」『東京独立新聞』137号　1971年9月15日
「働き者と怠け者」『SPUR』　1971年
「規則と汚職」『三色旗』285号　1971年12月1日
「働き者と怠け者―反成長の経済学」『Kamerad』No. 11　1972年
「緩慢バス―要素賦存と国際貿易―」『SPUR』Sprirg,　1972年
テキストの周辺14「矢内原勝著『国際貿易論』―国際貿易理論からの発言―」『三色旗』292号　1972年7月
「人間と自然世界」『SPUR』三田祭特集号　1972年
「経済学と経済学者」『慶應義塾大学報』43号　1973年2月1日
"Liveliness of People Is a Promising Factor, Favorable for the Development of Africa, Africa: Big

Leap toward Modern Age," *Japan Times*, September 25, 1973
「第3回国際アフリカニスト会議に出席して」『アフリカ研究』23号　1973年12月
「アフリカ諸国をめぐって」『経済と外交』622号　1974年3月
「私のアフリカ」『月刊アフリカ』 14巻6号　1974年6月
「食糧問題と政治経済学」『SPUR』1974年
「善意による経済協力の事例」『SPUR』　1975年秋
研究余滴「ケニア緑茶—開発輸入の例」『三色旗』333号　1975年12月
海外留学レポート・フランス「形式と実質の併存する社会—パリ第一大学での体験—」『塾』80号　1976年1月1日
「私とアフリカ」『慶應通信』365号　1978年8月1日
「日本の援助について」『SPUR』改訂1号　1978年
「西アフリカ・サバナ気候区の穀物」『世界の農林水産』481号　1979年　5月
「アフリカ経済の特質」『スチールデザイン』192　1979年5月
「日本の援助—タンザニアのキリマンジャロ州について—」『SPUR』改訂2号　1979年
「日本の自動車輸出と国際的摩擦」『SPUR』改訂3号　1980年11月
「日本の景観—放置か規制か」『三色旗』394号　1981年1月
「発展途上国・都市の交通網」『SPUR』改訂4号　1981年
テキストの周辺・新『国際貿易論』『三色旗』416号　1982年11月
「ロメ協定・輸出稼得安定化機構」『SPUR』　改訂5号　1982年
昭和58年度　NHK『高校地理』NHKサービスセンター　25「石油の宝庫・中東」26「北アフリカの国々」27「サバナの自然と人間」28「サハラ以南・社会と経済」29「ブラックアフリカの鉱業」（昭和60年度NHK『世界・人とくらし』，29は27「アフリカの鉱業」，28は29「熱帯アフリカ」，28は29「変わりゆくアフリカ」となった）
「発展途上国の様相」『SPUR』改訂6号　1983年
「飢きんの意味」『SPUR』改訂7号　1984年
時の話題・飢えるアフリカ「ブームに終わらせず正しい現状と認識を」『三田評論』855号　1985年2月
「最貧・内陸国マラウイ—数字と現状との乖離の例—」『SPUR』改訂8号　1985年
内野席・外野席「アフリカの広告」『日経広告手帖』1985年11月
「発展途上国の現状と展望」『塾友』334号　1986年2月
現地通信：「マラウイの都市と農村」『アフリカレポート』2号　1986年3月
「資源と人間の叡知」『SPUR』　改訂9号　1986年
「南北問題における正義・公正」アルセルモ・マタイス・稲垣良典編『国際シンポジウム・現代社会と正義』明石書店，1987年
「利己心と利他心」『SPUR』　改訂10号　1987年
「ベン・ジョンソンの先祖—大西洋奴隷貿易」『SPUR』改訂11号　1988年
「アフリカの虚像と実像（巻頭言）」『アフリカレポート』8号　1989年3月
「14年ぶりのナイジェリア」『塾友』373号　1989年11・12月号
「発展の障害は何か—ナイジェリア—」『SPUR』改訂12号　1989年
「アフリカの都市」『三色旗』505号　1990年4月
「国境の持つ意味」『SPUR』改訂13号　1990年
研究余滴「ナイジェリアの調査」『三田評論』922号　1991年2月

辞　　典

「帝国主義」「移民問題」『人門経済学辞典』泉文堂　1952年
「植民地」「植民地政策」「移民」「プランテーション」「投資植民地」「栽植植民地」「民族資本」「半植民地」「従属国」『経済学辞典』　平凡社　1954年
「帝国主義論・世界経済論の系譜」（第2章）「国際価値論争」（第4章第1節）『日本における経済学の百年』上巻　1959年7月
解説『低開発社会への経済的衝撃』（フランケル）4巻『低開発諸国資本形成の諸問題』（ヌルクセ）4巻『植民政策』（ツィンメルマン）3巻『フランス植民政策史』（ロバーツ）1巻『世界名著大辞典』平凡社　1960年
「国際経済」『玉川百科大辞典』22　経済　8章　1961年
「英連邦特恵制度」「バルク・バイング」「コロンボ・プラン」「貿易—イギリス」大阪市大『経済学辞典』岩波書店　1965年
「ねったいのうさんぶつ」『社会科学大事典』14巻　鹿島研究新出版会　1970年
「モノカルチュア経済」『社会科学大事典』18巻　鹿島研究所出版会　1971年
「英連邦特恵制度」「貿易—イギリス」大阪市大『経済学辞典』第2版　岩波書店　1979年
「英連邦特恵制度」「アフリカ経済」大阪市大『経済学辞典』第3版　岩波書店（未刊）

学界・学会紹介

学会新地図／国際経済学会……P.C.L.（匿名）『経済セミナー』77号　1962年12月
連合加盟学会紹介「アジア政経学会」『日本経済学会連合ニュース』No. 4　15—VI　1971年
連合加盟学会紹介「国際経済学会」『日本経済学会連合ニュース』No. 6　1—II　1973年
学界通信「第3回国際アフリカニスト会議に出席して」『アフリカ研究』23号　1973年12月
「アジア政経学会」『日本経済学会連合ニュース』創立25周年記念特輯号　1974年
「アジア政経学会」『日本経済学会連合ニュース』創立30周年記念特輯号　No. 17　1980年
日仏シンポジウム「発展途上国との経済協力政策の日仏比較」『日本経済学会連合ニュース』No. 22　1985年

随想・追憶

「畫材を尋ねて」『塾友』27巻2号　1954年2月号
「追憶集によせて」藤井立編『藤井洋の面影』　1955年
「英国の画壇」『新文明』5巻5号　1955年5月
「ロンドンの日本映画について（ロンドンだより）」『新文明』5巻9号　1955年9月
「スコットランド紀行（イギリスだより）」『新文明』5巻6号　1955年6月
「シェークスピアのことなど」『新文明』5巻12号　1955年12月
「ビリイ・グレアムのことなど」『橄欖』17号　1955年
「ケントのある町より—緑の丘と赤い農家とそして古い城と—」『新文明』　6巻1号　1956年1月
「エジンバラ文化祭—石の古都とスカートの男達と—」『新文明』6巻3号　1956年3月
「スコットランドの新年—黄金の砂，白銀の街，アバディーン—」『新文明』6巻4号　1956年4月
「スコットランド高原の旅—山の湖とそして羊と—」『新文明』6巻7号　1956年7月
世界大学めぐり⑥「ロンドン大学」『エコノミスト』　1956年9月15日号
「朝明けの国—西アフリカ」『小学六年生』　1956年8月特大号
「ロンドン大学の窓から」(1)〜(8)『三田新聞』　1956年5月21日(1)，6月11日(2)，21日(3)，9月11日(4)，21日

(5) 、10月1日(6), 11日(7), 11月1日(8)

「西アフリカ紀行―眼くるめく太陽と砂とそして黒人たちと―」『三色旗』106号　1957年1月1日

「旅情にひろう　ライラックの国イギリスにて」(写真)『女学生の友』　1957年5月

「チョコレート物語」『小学六年生』　1957年7月号

「チューリッヒの町かどで」『小学五年生』　1957年10月号

「世界のクリスマス・イギリス」『新女苑』21巻12号　1957年12月(写真)

世界風俗カード「ウサギのおもちつき……ガーナ」『小学六年生』　1958年9月号　付録(無記名)

「若手のみた塾　あすの学問　経済学部」『三田新聞』1958年11月11日

「世界の街角」ロンドン・オックスフォード・ストリート(写真)『婦人朝日』155号　1958年12月

「アジャンタとエローラ―眼くるめく太陽と石窟と仏達と―」『国際政経百年祭記念号』　1958年

「古い国・新しい力・インド」『小学六年生』　1959年7月号

「外国の友人たち」『三田評論』585号　1959年12月

「バス旅行について」『三色旗』148号　1960年7月1日

「編集後記」(シェークスピア)『三田学会雑誌』54巻10号　1961年10月

「戦争中のことなど」『かめらあど』No. 2　1961年

「矢内原家のこと」『かめらあど』No. 3　1962年

「たった一度だけ賞めてくれた父」『教養学部報』(東大)102号　1962年1月25日

「おカネを造るのにおカネのいる話」『三色旗』176号　1962年11月1日

「編集後記」『三田学会雑誌』55巻6号　1962年6月

「編集後記」(柳腰の美人)『三田学会雑誌』56巻2号　1963年2月

「大熊さんへのお祝いと感謝とそして期待と」『ジェノア』2(大熊一郎研究会誌)　1963年4月21日

「日本人とドイツ人の生活態度」『SPUR』　1963年

「卒業論文について」『かめらあど』No. 4　1963年

「仕事と家庭のことなど」『サンデー文集』慶應義塾大学経済学部3年D組　1963年

「文献調べの現実と夢と」『三色旗』190号　1964年1月

「ゼブラのことなど」『KAMERAD』No. 4　1964年

「アメリカ人に対する1つの感想」『SPUR』三田祭特別号　1964年

「学生部の感想」『KAMERAD』No. 6　1965年

「Big Push」『三木英語塾』1965年10月

「軍隊というもの」『SPUR』　1965年

私の楽しみ=その31=「絵と彫刻」『慶應通信』214号　1966年1月1日

「身をもって覚えること」『KAMERAD』No. 7　1966年

「編集後記」(法隆寺)『三田学会雑誌』60巻1号　1967年1月

「靖君の霊に」『おもかげ―田原靖追憶』　1967年

「編集後記」(ラゴスにて)『三田学会雑誌』60巻6号　1967年6月

会員だより「病気，飛行機，兵隊さん」『日本経済研究センター会報』60号　1967年7月15日

「病気，飛行機，兵隊さん」『KAMEEAD』No. 8　1968年

「胸を躍らせるようなこと」『KAMERAD』No. 9　1969年

「三田・第一研究室のことなど」池田彌三郎編『回想・慶應義塾大学』　ビデオ出版　1969年

「巻頭言」『SPUR』定期号　1969年

「選挙雑感」『かめらあど』No. 10　1970年

「学生と学生時代」『塾』2号　1970年4月1日

「父との対話」『われらの課題―矢内原忠雄先生十周年記念文集』1971年12月

会員だより「象とライオン」『日本経済研究センター会報』179号　1972年7月1日

新常任理事の横顔「一座を組むことのできる人—山本登教授のこと—」『三田評論』729号　1973年8・9月
「夜行性のサル」『KAMERAD』No. 12, 1974年
「私のホビイ」『慶應義塾大学報』52号　1974年8月1日
会員だより「サルと私」『日本経済研究センター会報』23号　1974年11月1日
「学部をめざす人へ：経済学部」『慶大を受ける人のために』河合塾（編）　1975年
新経済学部長の横顔「大熊一郎君—生粋の江戸ッ子」『慶應義塾大学報』64号（匿名・Y）　1975年12月1日
「悦子叔母さんの机」『田原悦子追憶集』　1976年
Lobby（放送朝日終刊に寄せたことば）『放送朝日』259号　1976年12月
「パリでの研究と生活」『三田評論』783号, 1978年7月
「パレット・クラブの歴史の中の私」『Pallette Club 80 Years』　1979年
「ジャン・カラスの事件」（こよみ十月）『三色旗』379号　1979年10月
「学者と外国語の会話」『慶應義塾大学報』110号　1980年4月1日
「表紙のことば」『泉』28号　1980年5月
「留学の日々・ロンドンとパリ　第1回　はじめに—留学の契機」『泉』29号　1980年8月
「留学の日々・ロンドンとパリ　第2回　留学生海を渡るA」『泉』30号　1980年11月
「周辺からの証言」文責・河野初江「Recruit who's who　加藤寛氏」『月刊リクルート』14巻7号　179号　1981年7月
「留学の日々・第3回　留学生海を渡る(B)」『泉』31号　1981年2月
「留学の日々・第4回　西欧文化の吸収(A)　芝居・オペラ・音楽会」『泉』32号　1981年5月
コラム「絵」『三田評論』815号　1981年6月
「わが学部を語る・経済学部—国際的評価に耐える学部に—」『1981　慶應義塾を考える—入試と教育—』慶應義塾大学　1981年
「留学の日々・ロンドンとパリ　第5回　西洋文化の吸収(B)造型芸術」『泉』33号　1981年8月
「留学の日々・ロンドンとパリ　第6回　市民の足」『泉』34号　1981年11月
「留学の日々・ロンドンとパリ　第7回　庶民の娯楽」『泉』35号　1982年2月
「留学の日々・ロンドンとパリ　第8回　図書館」『泉』36号　1982年5月
「イヌ雑考」『北葉』第30号　1982年
「留学の日々・ロンドンとパリ　第9回　ロンドンの食生活」『泉』37号　1982年8月
「本・こぼれ話『信仰と学問—未発表講演集』編集余滴」『本のひろば』1982年8月
「卒業論文・テーマと執筆の要領」『慶應義塾大学報』135号　1982年10月1日
「モデルさんたち」『パレット新聞』6号　1982年10月20日
「留学の日々・ロンドンとパリ　第10回　パリの食生活」『泉』38号　1982年11月
「留学の日々・ロンドンとパリ　第11回　留学生帰国する」『泉』39号　1983年2月
「お茶の水聖書講義と山中湖畔および妙高聖書講習会について」『矢内原忠雄未発表聖書講義・イザヤ書・ミカ書』挿入のパンフレット　新地書房　1984年
第9回全国高校生小論文コンテスト・小泉信三賞選評「若者の若き思いに触れて」『三田評論』854号　1985年1月
相沢節先生「弔辞」（1984年7月22日）『一路』57巻2号　1985年2月
「当世学生をやっている人たち」『塾友』327号　1985年4月号
「藤崎さんと一杯のコーヒー」『アジアに道を求めて　藤崎信幸追憶集』　1985年
「わが町，わが家：自由が丘の移り変り」『三色旗』446号　1985年5月
銀座歳時記—第15回—「銀座と私」『BRB通信』1985年8月
「クリスマス・父の死」『三色旗』453号　1985年12月
第10回全国高校生小論文コンテスト・小泉信三賞選評「選考にあたり感じたこと」『三田評論』866号　1986

年1月
「思い出の一日」山岸真純・柿原敦編集『塩谷隆志君追憶文集』　1986年
「大熊一郎『おしゃべり』についてのおしゃべり」『塾友』342号　1986年10月
「私たちの予科時代」『Salon』加藤寛研究会誌　26号　1986年12月13日
「大熊一郎君を偲ぶ—おしゃべり大熊60余年の生涯—」『三田評論』879号　1987年3月
「大熊一郎学兄を天に送る」『塾友』346号　1987年3月
「鶏肋」『慶應義塾大学報』181号　1987年4月1日
〃　〃　183号　1987年6月1日
〃　〃　185号　1987年8月1日
「モナリザの眉」『塾友』351号　1987年9月
「時間と時計の生活」『三色旗』481号　1988年4月
「いくらかの統計の意味するもの」『慶應通信』486号　1988年9月1日
「パレット・クラブと学生ホールの壁画」『塾』151号　1988年10月
「三田山上の散歩」『塾友』362号　1988年10月
「巻頭のことば」『別冊・三田学会雑誌』1989年
「発展の障害は何か—ナイジェリア—」『SPUR』改訂12号　1989年
「山本研究会と私」『山本ゼミの思い出』山本会　1990年

書　　評

経済書評「国際価値論争」『エコノミスト』　1951年4月21日号
「ハンス・コーン『ナショナリズムの理念』」『三田学会雑誌』44巻7号　1951年11月
「モーリス・ジンキン『アジアと西洋』」『三田学会雑誌』45巻4号　1952年4月
「ジョン・コートマン『英連邦の家族的結合』」『三田学会雑誌』46巻6号　1952年6月
「ハーバート・フランケル『未開発社会への経済的接衝—国際投資と社会変化に関する諸論文』」『三田学会雑誌』47巻8号　1954年8月
紹介「ニュウリン・ロウワン『英領アフリカ植民地における貨幣と銀行業務』」『経済評論』　1956年11月
Van Leur, *Indonesian Trade and Society, Asian Affairs,* Vol. 1, No. 4, (December 1956)
「ファン・ルール『インドネシア貿易と社会』」『アジア問題』6巻1号　1957年1月
紹介「百々巳之助『植民地に於ける議会政治の諸問題』百々巳之助『アフリカの政治』」『国際法外交雑誌』58巻3号　1959年7月
「日本エカフェ協会編『アジア経済発展の基礎理論』」『エコノミスト』　1959年9月8日号
新刊紹介「中東調査会編『アジア・アフリカ民族運動の実態』」『三田学会雑誌』53巻12号　1960年12月
新刊紹介「講座・国際経済　第2巻『国際収支』」『三田学会雑誌』54巻9号　1961年9月
10冊の本・時の問題理解のために㉛「植民地」『週刊読書人』　1962年4月30日
「国際連合編／アフリカ協会訳『アフリカ経済概観』」『朝日ジャーナル』4巻2号　1962年1月14日
「中西市郎『国際経済論と日本』」『図書新聞』　1962年3月3日
「堀江薫雄『国際通貨基金の研究—世界通貨体制の回顧と展望』」『週刊読書人』418号　1962年3月26日
W. Malenbaum, *Prospects for Indian Development, Developing Economies,* Vol. 1, No. 2. (July-December 1963)
新刊紹介「小島　清『世界経済と日本貿易』」『三田学会雑誌』55巻10号　1962年10月
「ロベール・フォセール『資本主義の将来』」『こ・お・ぷ』（慶應義塾生活協同組合ニュース）法人化5周年特集号　1962年10月25日
「ガルブレイス著／小原敬士訳『経済開発の展望』」『図書新聞』680号　1962年11月10日

「板垣与一『アジアの民族主義と経済発展』」『経済発展と貿易』（『国際経済』14号） 1963年
新刊紹介「川田　侃『世界経済入門』」『三田学会雑誌』56巻10号　1963年10月
「川田　侃『帝国主義と権力政治』」『週刊読書人』509号　1964年1月20日
「片山謙二，狭間源三『自由化とブロック化』」『三田学会雑誌』57巻12号　1964年12月
新刊紹介「岡倉古志郎，蠟山芳郎（編著）『新植民地主義』」『三田学会雑誌』57巻11号　1964年11月
「岡倉古志郎・蠟山芳郎（編著）『新植民地主義』」『コリア評論』6巻7号（49号）　1964年11月
「D．ワイトマン著／日本エカフェ協会訳『アジア経済協力の展開』」『朝日ジャーナル』7巻29号　1965年7月18日
「C．P．キンドルバーカー／山本登監訳『外国貿易と国民経済』」『三田学会雑誌』59巻2号　1966年2月
「堀辰雄『風立ちぬ』など」『三色旗』222号　1966年9月1日
「原　覚天『アジア経済論』」『日本経済新聞』　1967年2月27日朝刊
Alasdair I. MacBean, *Export Instability and Economic Development, The Developing Economies V-3* (September, 1967)
「加藤義喜『後進国の貿易と開発』」『週刊東洋経済』2—7特大号，3518号　1967年2月7日
「バーバラ・ウォード，P．T．バウアー／山岡喜久男，鐘ヶ江彰訳『低開発国援助論争』」『三田学会雑誌』61巻11号　1968年11月
「栗本　弘『アジアの経済成長』」『世界経済評論』13巻5号　1969年5月
「ピェール・フージェイロラ『人間の近代化—セネガルの例』」『三田学会雑誌』62巻6号　1969年6月
「アンダーソン，メーデン，ヤング／木村修三訳『低開発国の政治的』」『今週の日本』56号　1969年10月26日
「島野卓爾『世界経済を考える—円切上げ問題に関連して』」『今週の日本』101号　1970年9月6日
「行沢健三（編）『日本経済とアジア』」『世界経済評論』14巻11号　1970年11月
「ヤン・ティンバーゲン／恒松制治訳『開発計画』」『週刊東洋経済』3573号（新年特大号）　1970年12月26日
「赤羽　裕『低開発経済分析序説』」『三田学会雑誌』65巻9号　1972年9月
「板垣与一編『日本の資源問題』」『自由』14巻12号　1972年12月号
「原　覚天編著『発展の統合理論序説』」『世界経済評論』17巻9号　1973年9月
G．ミュルダール／*S*．キング『アジアのドラマ—諸国民の貧困の一研究』『週刊読書人』1037号　1974年7月15日
「矢野　暢『日本の「南進」と東南アジア』」『世界経済評論』19巻5号　1975年5月
「原　覚天『アジア経済発展理論』」『エコノミスト』　1975年6月3日号
この一冊　服部伸六『黒人売買の歴史』『三田キャンパス』55号　1978年6月20日
「斎藤　優『技術移転論』」『世界経済評論』23巻4号　1979年4月
図書紹介「ジョン・K・ガルブレイス『大衆的貧困の本質』」『国際協力』269号　1979年7月
「岡倉登志『ブラック・アフリカの歴史』」『アジア』15巻2号　1980年2月
「星昭編『アフリカと国際関係』」『世界経済評論』25巻1号　1981年1月
「小田英郎編『70年代南部アフリカの政治・経済変動—南ア共和国・ローデシア・ナミビアを中心にして—』」『アジア経済』22巻6号　1981年6月
「W．アーサー・ルイス著：原田三喜雄訳『国際経済内秩序の進展』」『三田学会雑誌』75巻2号　1982年4月
「高橋彰・森田桐郎・土屋守章・浜田宏一・原朗編　『第三世界と経済学』」『週刊ポスト』　1982年6月4日号
「市川承八郎『イギリス帝国主義と南アフリカ』」『世界経済評論』26巻8号　1982年8月
「私がすすめる三冊」『経済セミナー』No. 363　1985年4月
「梅津和郎『アフリカ経済の史的分析』」『世界経済評論』31巻3号　1987年3月号
「名東孝二編著『世界の地下経済』」『週刊ポスト』919号　1987年10月2日号
「W．アーサー・ルイス　益戸欽也／勝俣誠訳『人種問題のなかの経済』」『エコノミスト』　1989年2月14日号
「塩沢由典『市場の秩序学』」『マフィン』4巻1号　1991年1月

「塩沢由典『市場の秩序学』」『女性セブン』　1991年2月7日号

座　談　会

座談会記録「ナショナリズムの諸問題について」（島田久吉・中村菊男・石川忠雄・白石孝・山本登・青沼吉松・矢内原勝・多田真金助・司会 前原光雄）『三田政治学会誌』35　1952年3月

「あの頃はこうでした—もうパレットも五十七年です—」（仙波均平，清原俊一，川田克己，森悟一，野口普二，神吉貞一，木村正三，門川正泰，矢内原勝，鈴木正昭，司会 石光真一）『PALETTE』2　1956年

「欧米の大学生活」（永戸多喜雄，佐藤豪，関口操，矢内原勝，森岡敬一郎，宮沢浩一）『三田評論』592号　1961年3月

「外交青書を批判する」（大平善梧，寺沢一，矢内原勝，田中秀穂）『国際問題』18号　1961年9月

「アジアの分析と将来—激動するアジアの現状を考察し，未来を語り合う—」（栗本弘，矢内原勝，青野博昭，岸幸一，森田善二郎）『経済往来』15巻11号　1963年11月

「世界の経済計画とアジアへの教訓」（加藤寛，矢内原勝，松浦保，大西昭，高橋正雄）『コリア評論』6巻8号　1964年12月

「これからの国際情勢—フランスの中共承認—」（福良俊之，気賀健三，常盤絢子，生田正輝，中村洸，矢内原勝）『三田評論』625号　1964年4月

「国の底辺をさぐる」（岩城剛，河部利夫，矢内原勝，梶谷善久，荒木光弥）『国際開発ジャーナル』67号　1967年9月5日

「発展途上国の底辺をさぐる—近代化を阻害するもの—」（河部利夫，岩城剛，梶谷善久，矢内原勝）『国際開発ジャーナル』67号　1970年9月5日（『第三世界と経済協力—反日感情をぬぐうもの—』ジャセップ，1973年所収）

フォーラム：「多国籍企業と労働問題—その2—海外進出と労働関係」（広野良吉，田島英俊，堅山利文，司会 高橋武）『日本労働協会雑誌』No. 166　1973年1月

鼎談「ものの見方—イギリス人の場合」（安東伸介，桑原三郎，矢内原勝）『三色旗』306号　1973年9月1日

「発展途上国と日本の企業進出—アフリカの場合—」（佐野勝男，高梨和紘，寺尾誠，高橋潤二郎，矢内原勝）『三田評論』754号　1975年12月

「卒業試験について」（高橋正彦，倉沢康一郎，茅野泰夫，矢内原勝）『三色旗』335号　1976年2月

「激動するアフリカ—南部の動向を中心に—」（小田英郎，高梨和紘，篠田豊，矢内原勝，林晃史）『三田評論』795号　1979年8・9月

「現代のアフリカ問題について」（矢内原勝，青木一能，小田英郎）『三色旗』397号　1981年4月

「苦悶するアフリカ—その背景をさぐる—」（吉田昌夫，篠田豊，矢内原勝，司会　小田英郎）『三田評論』862号　1985年8・9月

「アフリカの当面する課題と90年代の展望」（矢内原勝，林晃史，島田周平，勝俣誠，黒河内康，乾文男）『ジェトロセンサー』　1989年4月

挨　拶　等

「お祝いのことば」『創立70周年うさぎ幼稚園』　1958年

「発刊に際して」『アジア研究会新聞』創刊号　1958年10月9日

「雑誌創刊にあたって」『かめらあど』創刊号　1960年

「雑報」『嘉信』24巻12号（288）　1961年12月

うさぎ幼稚園80周年「祝辞」『はなたば』　1967年

「会長挨拶」『第17回全慶応美術展』　1968年

「創刊によせて」『パレット便り』創刊号　1968年4月3日
「会長挨拶」『第18回全慶応展』　1969年
「会長挨拶」『第19回全慶応美術展』　1970年
「会長挨拶」『第20回全慶応展』　1971年
「会長挨拶」『第21回全慶応展』　1972年
「会長挨拶」『第22回全慶応展』　1973年
「新しい名簿の完成を祝って」『慶應義塾大学パレットクラブ員名簿』　1973年
「会長挨拶」『第23回全慶応美術展』1974年
「会長挨拶」『第24回全慶応美術展』　1975年
「部長のことば」『洋弓部ＯＢ通信』　1986年5月31日
「部長のことば」『洋弓部ＯＢ通信』　1987年
「部長のことば」『洋弓部ＯＢ通信』　1988年7月16日
「洋弓部長を辞す」　1990年7月30日
「哲学，思想なき政界に新風を」『PEA・K』Vol. 1，1990年
「退任者のあとがき―謝意と研究の軌跡」『三田学会雑誌』83巻特別号―Ⅱ　1991年3月

装幀，表紙絵，カット，写真

（装幀）『理財学会誌』9号　慶應義塾大学理財学会　1950年1月
（表紙絵）『塾友』27巻2号　1654年2月
（装幀）『経済学会年報』　慶應義塾経済学会1　1958年3月～　（2号以降は改悪されている）
（装幀）矢内原忠雄『大学について』　東大出版会　1963年第3刷
（装幀）陳茂棠『アブラハムをめぐって』　嘉信社　1962年
（装幀）矢内原忠雄『教育と人間』　東大出版会　1961年第1刷
（装幀）矢内原忠雄『銀杏のおちば』　東大出版会　1964年第2刷
（装幀）矢内原忠雄『日本のゆくえ』　東大出版会　1964年第5刷
（表紙絵）『泉』28号　1980年5月
（装幀）『別冊　三田学会雑誌』　1989年，1990年
（装幀）『三色旗』　1989年1月号～12月号　3カ月共通の表紙を使用（1～3）（4～6）（7～9）（10～12）
（装幀）『三色旗』　1990年1月号～12月号（毎号）